

# パターン適用による フレームワークの内部構造の改良

新居雅行

nii@msyk.net

### 開発における問題点

- フレームワークの機能拡張部分の実装に関する問題点があった。
- それを解決するための実装方針を得るため にパターン適用を行った。
- パターン適用のプロセスを経て、適切なパターンを得て、実装へとつなげる必要がある。

### 手法・ツールの適用による解決

- 問題点を克服する内部構造をパターン選択の プロセスから得る事ができた。
- 前提条件とフォースを事前にまとめることで、 パターンの適合度を検討できた。
- パターンカテゴリの選択をやり直す必要もあった。また、複数のカタログ記述を参照してパターンの適合度を検討する必要もあった。

# パターン適用のプロセス

STEP1:状況の理解

#### \_\_\_\_\_ STEP2:パターンの選択

- 1. パターンカテゴリの選択
- 2. 問題カテゴリの選択
- 3. 問題の検討
- 4. 利点と欠点の検討
- 5. バリエーションの検討

#### STEP3:パターンの適用

- 1. 適用箇所の決定
- 2. デザインパターンの展開
- 3. 周囲との調整



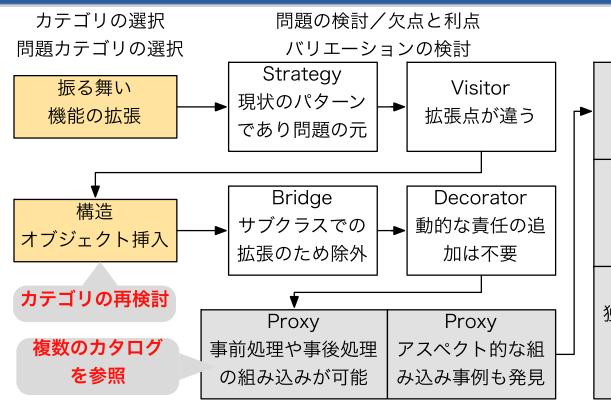
STEP4:パターンの評価

適用結果の比較

## 前提条件とフォース

前提条件1	拡張した結果もデータアクセスクラス と同じ振る舞いになる
前提条件2	既存のデータアクセスクラスを利用で きるようにする
フォース1	拡張プログラムは個別に指定したい
フォース2	サブクラスによる拡張はしない方が 良い
フォース3	新たなデータアクセスクラスが必要に なる可能性がある

## パターン適用のプロセスを利用した問題の検討



パターンの展開

Proxy 透過的な動作 (前提条件1)

Proxy 代理オブジェクト (前提2、フォ*ー*ス3)

Proxy 独立したオブジェクト を追加して利用 (フォース1, 2)